昭和の大修理

350 年ぶり

姫路城の歴史上、最も大規模な修理は 1956 年に始まりほぼ 8 年かかった。昭和時代（1926-1989）の後、昭和の大修理として知られ、この大きな事業は天守閣の完全な解体と再構築を含んでいた。多くの歴史的建築的発見がその作業の途中で、最初の建設者による建物の部分に残された銘刻のお陰でなされた。1956 年から 1958 年にかけて天守閣全体が巨大な屋根のある足場のもとで解体された。職人たちは必要な箇所に、建物の柱、梁そして他の部分を取り替えることで清掃と修理に数年費やし、その後骨を折って建物全体を再び組み立てた。細長い部屋と厨房を結ぶ小さな隣接する天守も修理された。この事業が 1964 年に終了するまでに、250,000 日以上に相当する時間が事業に費やされた。

昭和の大修理に関する年表

1934 年　修復作業始まる。長年の不十分な管理のために西の丸長局一部が崩れ、大規模な整備の必要性が明らかになった。しかしその作業は第二次世界大戦勃発のためにわずか 2、3 年で停止される。

1945 年　戦争が終わり、空襲から城を守るためそれを覆っていた黒いネットが取り除かれる。城は戦後の再建の象徴となり、周辺の町の瓦礫の中に高くそびえ立つ。

1949 年　白鷺城修復協会が国の政府に再建作業を更新するよう陳情するために形成される。

1950 年　作業が再開される。櫓と菱の門を含む二の丸の土壁から始める。

1956 年　天守閣の修復始まる。天守閣は完全に解体され、修理され再び組み立てられる。

1964 年　作業は完成そして城は 8 年ぶりに一般に公開され、市の内外から 170 万人の来訪者を引き寄せる。

足場

材木：10,000 以上の杉の梁(それぞれ直径が 4 寸，すなわち 12.12 センチメートル)

締めくぎ：120 トン

材料の運搬

長さ 200 メートルの木製の傾斜路

建設作業

解体，修理，再構築

所要時間：8 年（1956－1964）

黒い迷彩で空襲から守られる姫路城

西の丸につながる渡り廊下の崩壊

屋根のある足場と天守閣

足場そして材料運搬の傾斜路と天守閣

廃墟の町の中に無傷でそびえ、姫路城は「奇跡の城」として知られるようになった。